

著者紹介

福田陸太郎（ふくだ りくたろう）

1916年石川県生まれ。東京文理科大学英文科卒。ソルボンヌで比較文学専攻。現在日本女子大学文学部教授。東京教育大学名誉教授。

研究所長。日本比較文学会会長。近代語学文学比較文学会理事。その他インディアナ大学、リフォルニア大学各客員教授。主要著書：

『遠い国近い人—欧米作家の横顔』、『西洋論考』、『比較文学の諸相』

文学と風土

昭和五十五年一月三十日第一刷印刷

昭和五十五年二月九日第一刷発行

著作者 福田陸太郎

発行者 長沼國男

発行所 株式会社開拓社

電話 東京〇三（二六五）七六四一

振替 東京六一三九五八七番

東京都千代田区神田神保町二の五

郵便番号一〇一

印刷所 誠友印刷株式会社

製本所 合名会社水上製本所

定価一五〇〇円

文学と風土

文学と風土

福田陸太郎

開拓社

目次

I 詩の世界をのぞく

夏と花の詩	15
アメリカの抒情詩	20
アジア諸国の現代詩	34
今日の台湾の詩	38
カモンイスの詩に思う	42
西脇ゼミについて	45
子供の視点	51
関東ポエトリ・センター	58

II 文学の小径

文学の中の風	65
ダンディ論	69
文学と風土	78

Ⅲ 作家のおもかげ

イギリス文学散歩……………	115
シェイクスピアと私……………	120
ウイリアム・サンソムとの再会……………	125
ある思い出——ヘミングウェイ……………	128
サンフォード夫人、弟アーネストを語る……………	131
力を尽くして狭き門より入れ……………	134
古き良き時代の芸術家……………	146

Ⅳ 国際場裡の文学

ノーベル賞の六十八年……………	153
川端受賞の反響を読んで……………	158
死と視線が合った川端文学……………	164
ペン・オリンピックの最優秀作……………	168

ビエンナーレ国際詩人会議	172
ストックホルム国際ペン大会報告	177
バルト海の小航海	181

V 南半球ここかしこ

オーストラリアを見て	187
オーストラリア断想	190
羊の番所は詩人の館	198
旅窓から見たニュージールランド	202
マンスフィールドの故郷を訪ねる	206
ホリさんの憂鬱	212

VI 思い出の所と人

パリ通信	225
シラキュースの丘から	229

エズラ・パウンドを尋ねて	232
ローマの夜と朝	238
旅と音楽	241
石川先生にお別れして	248
安藤一郎氏を悼む	252
中島健蔵先生を偲ぶ	256
アレン・テイト逝く	260
初出一覧	267
あとがき	269

文学と風土

福田陸太郎
エッセイ集

I
詩の世界をのぞく

夏と花の詩

世の中の人の考え方や感じ方が複雑になり、一筋縄ではゆかぬようになってきている現代ではあるが、それ故にこそ、かえって、素朴なものに接して、ふと心を打たれることがある。やがて夏がやってくるが、「夏」という言葉一つでも、私たちの心を躍らせるものをもっているのではなからうか。シェイクスピアのソネットの一つに、次の文句で始まるものがある。

きみを夏の日にくらべようか？

きみはもっと美しくてやさしい。

この一節を愛誦する人はかなり多いと思われるが、内容は極めて単純である。次に英米文学の中の夏に関連した花の詩のことを、思いつくままに少しばかり書いてみることにしよう。

陽光に輝く庭の花々を並べたものとして、マシュー・アーノルドの詩の一節が思い出される。――